

第 1 回課題調査

第Ⅱ部 調査結果の概要

調査結果の概要

【記載内容についての注意】

- ・ 調査結果の比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。
- ・ 複数回答の設問では、その比率(%)の合計が100%を上回ることがある。
- ・ 文中の「n」は、「number of case」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- ・ 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせた場合に用いる。

例：問2で「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせたものを《関心がある》と表現している。

また、この場合の比率は実際の回答数の合計から算出しており、個々の選択肢の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。

- ・ 文中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

1 食・食育（問1～問9）

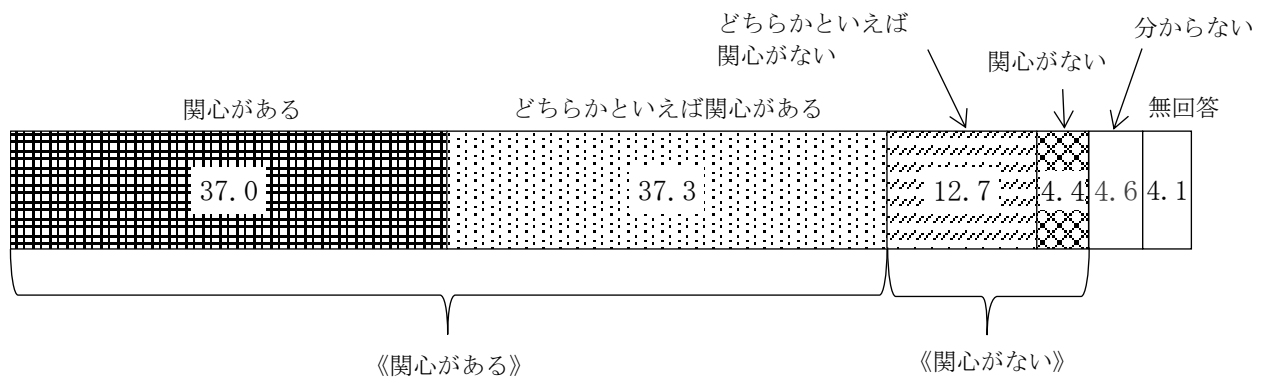
県では、未病を改善するための重要な要素である「食」について、県民一人ひとりが理解を深め、健全な食生活を実践することで、誰もが元気に笑顔で長生きできる社会の実現を目指して、「食育」を推進しています。今回、「食育」への関心などについて調査しました。

▼「食育」への関心（問1）

「食育」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」（37.0%）と「どちらかといえば関心がある」（37.3%）を合わせた《関心がある》は74.3%であった。

一方、「関心がない」（4.4%）と「どちらかといえば関心がない」（12.7%）を合わせた《関心がない》は17.1%であった。〔図表1〕

図表1 「食育」への関心（n=1,699）（%）



2 食の安全・安心（問10～問12）

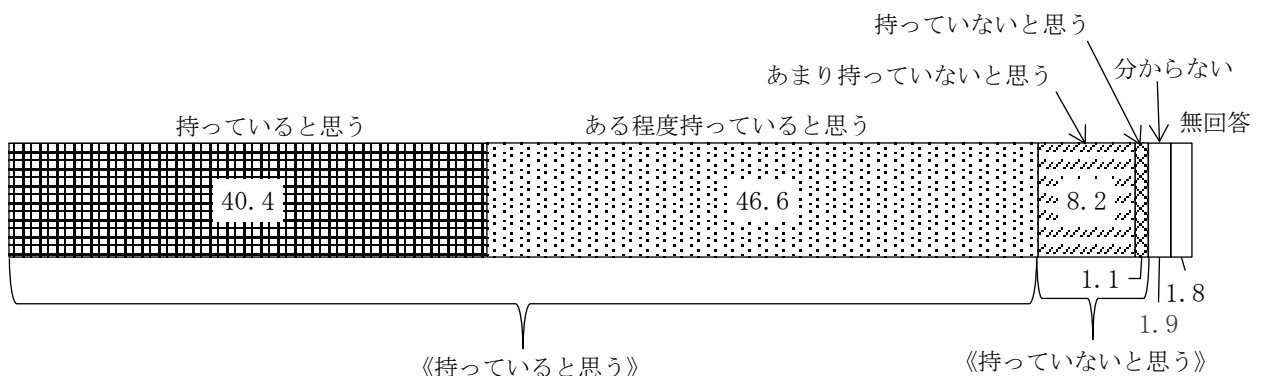
県では、県民の皆様の食の安全・安心の確保に向けた取組みを推進しています。今回、食品を安全に食べるための知識などについて調査しました。

▼食品を安全に食べるために必要な知識（問12）

食品を安全に食べるために必要な知識（例えば、調理や食事前によく手を洗う、生肉はよく加熱するなど）を持っていると思うか尋ねたところ、「持っていると思う」（40.4%）と「ある程度持っていると思う」（46.6%）を合わせた《持っていると思う》は87.0%であった。

一方、「持っていないと思う」（1.1%）と「あまり持っていないと思う」（8.2%）を合わせた《持っていないと思う》は9.3%であった。〔図表2〕

図表2 食品を安全に食べるために必要な知識（n=1,699）（%）



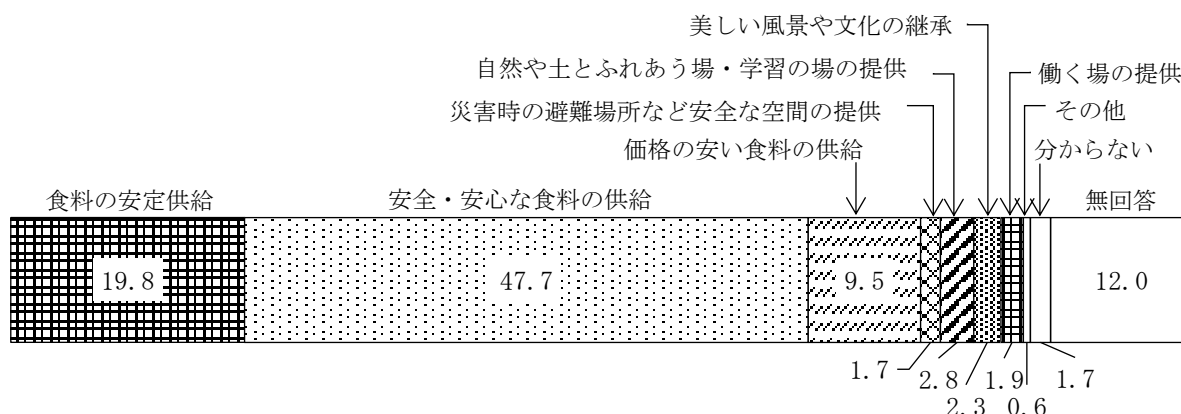
3 神奈川県農林水産業（問 13～問 17）

県では、都市農業の持続的な発展を図るため、地産地消の推進や多様な担い手の育成などの取組みを進めています。今回、神奈川県の農業に期待する役割などについて調査しました。

▼神奈川県農業に期待する役割（問 16）

神奈川県の農業にどのような役割を期待するか尋ねたところ、「安全・安心な食料の供給」が 47.7%で最も多く、次いで「食料の安定供給」が 19.8%であった。〔図表 3〕

図表 3 神奈川県農業に期待する役割（n=1,699）（%）



4 とともに生きる社会かながわ（問 18～問 23）

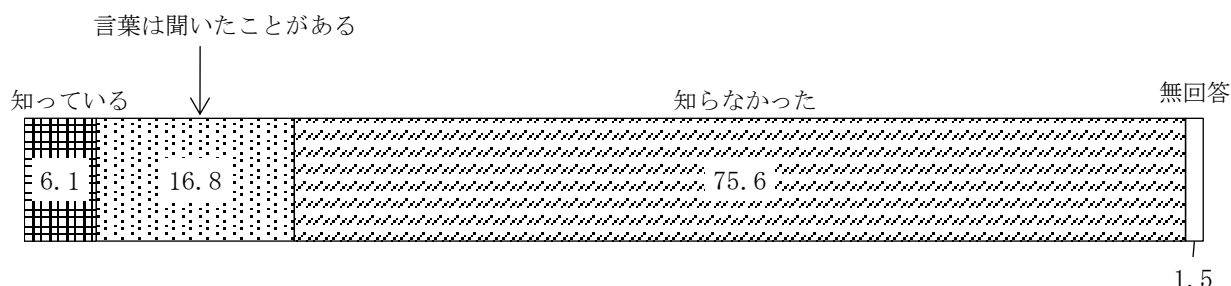
平成 28 年 7 月 26 日、障害者支援施設である県立「津久井やまゆり園」において 19 人が死亡し、27 人が負傷するという、大変痛ましい事件が発生しました。県では、このような事件が二度と繰り返されないよう、この悲しみを力に、断固とした決意をもって、ともに生きる社会の実現をめざし、県議会とともに「ともに生きる社会かながわ憲章」を策定しました。この憲章の理念を広く県民の皆様に普及する活動を行い、ともに生きる社会の実現に向けた取組みを推進していきます。今回、ともに生きる社会かながわ憲章の認知度などについて調査しました。

▼ともに生きる社会かながわ憲章の認知度（問 18）

ともに生きる社会かながわ憲章を知っているか尋ねたところ、「知っている」が 6.1%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が 16.8%であった。

一方、「知らなかった」が 75.6%であった。〔図表 4〕

図表 4 とともに生きる社会かながわ憲章の認知度（n=1,699）（%）



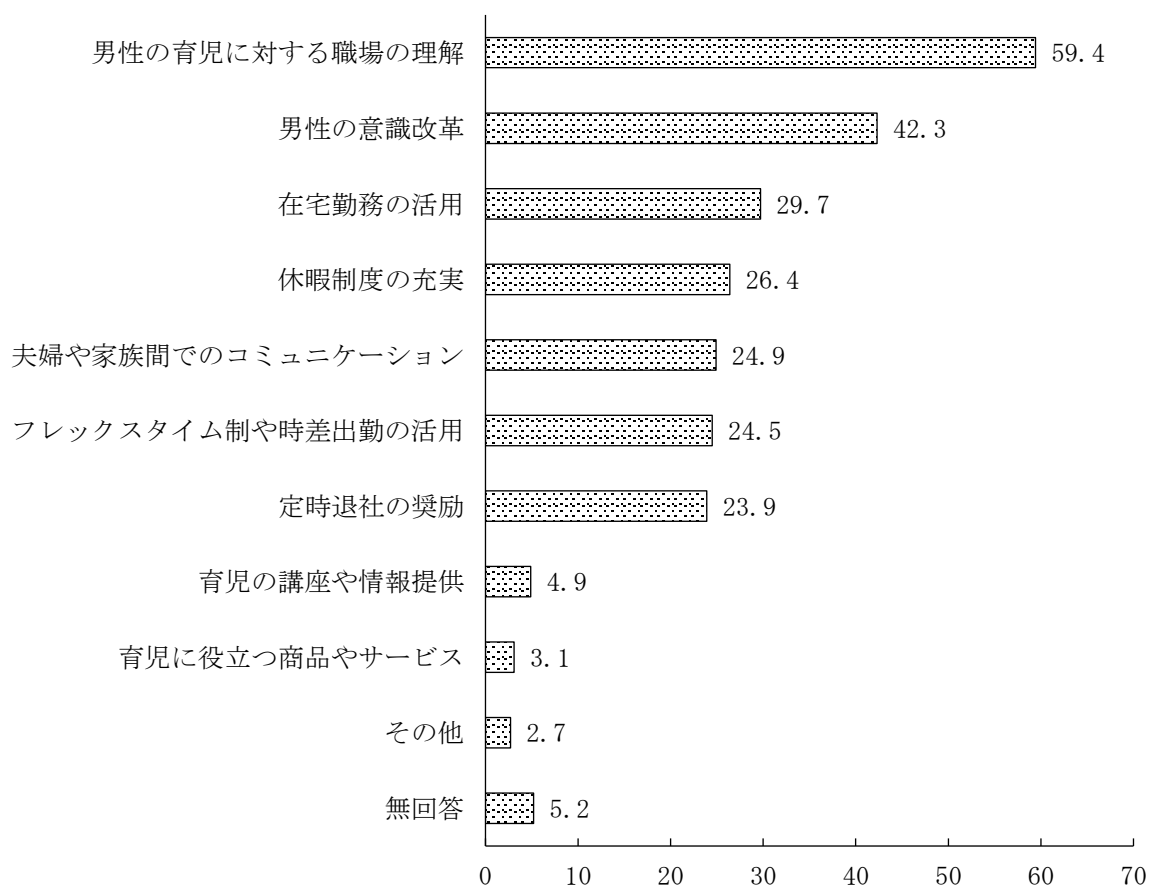
5 男女共同参画（問 24～問 27）

県では、男性の家事・育児への参画は、女性の生涯にわたっての就労継続やキャリアアップの促進等にもつながることから、性別役割分担に対する意識の変化を促す取組みだけでなく、男性の家事・育児が十分なレベルで日常的に当たり前となる社会環境を形成するための取組みを推進しています。今回、男性が積極的に育児にかかわるために必要なことなどについて調査しました。

▼男性が積極的に育児にかかわるために必要なこと（問 27）

男性が積極的に育児にかかわるために必要なことを複数回答で尋ねたところ、「男性の育児に対する職場の理解」が 59.4%で最も多く、次いで「男性の意識改革」が 42.3%であった。〔図表 5〕

図表 5 男性が積極的に育児にかかわるために必要なこと（複数回答）（n=1,699）（%）



6 神奈川県の人権（問 28～問 31）

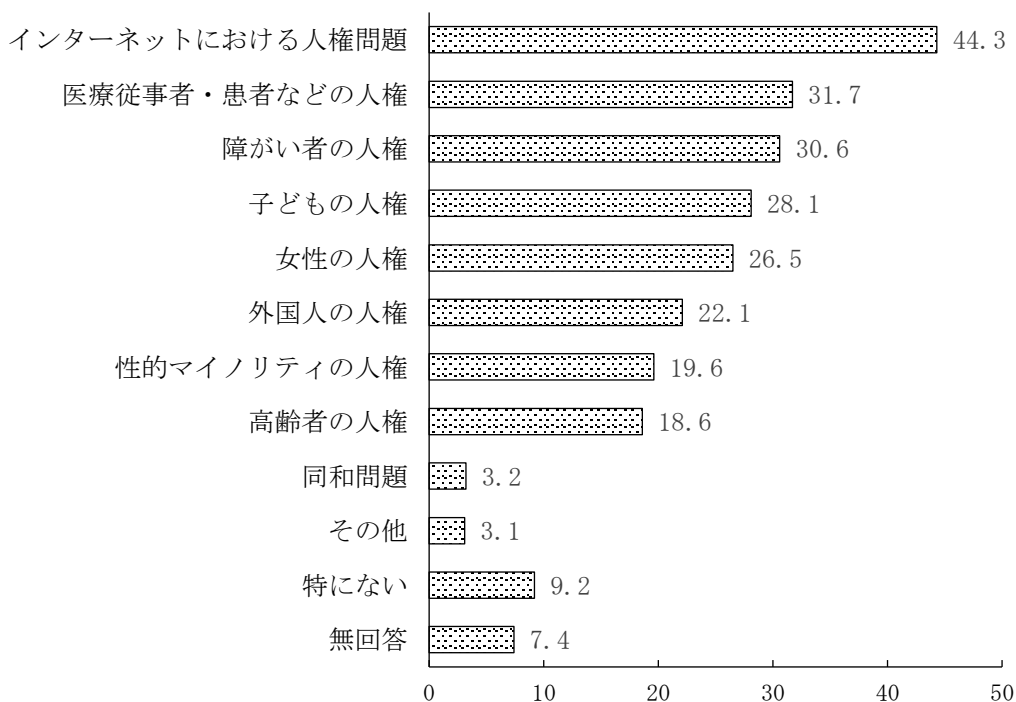
県では、「かながわ人権施策推進指針」に基づき、人権がすべての人に保障される地域社会の実現を目指して、取組みを進めています。今回、普段身近に感じたり、最近気になっている人権課題などについて調査しました。

▼普段身近に感じたり、最近気になっている人権課題（問 29）

普段身近に感じたり、最近気になっている人権課題を複数回答で尋ねたところ、「インターネットにおける人権問題」が 44.3%で最も多く、次いで「医療従事者・患者などの人権」が 31.7%であった。

[図表 6]

図表 6 普段身近に感じたり、最近気になっている人権課題（複数回答）（n=1,699）（%）



7 SDGs（持続可能な開発目標）（問 32～問 33）

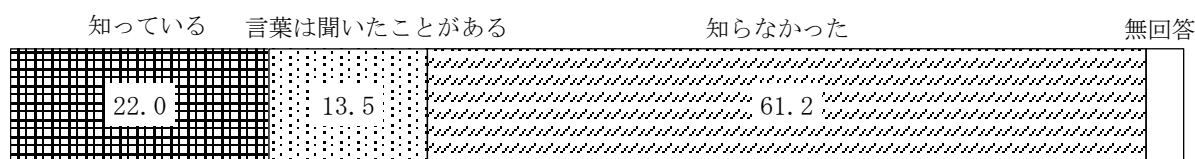
県では、「いのち輝く神奈川」の実現に向けて、持続可能な社会を目指すSDGsの推進に取り組んでいます。今回、「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」の認知度などについて調査しました。

▼「SDGs」の認知度（問 32）

「SDGs」という言葉を知っているか尋ねたところ、「知っている」が 22.0%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が 13.5%であった。

一方、「知らなかった」が 61.2%であった。[図表 7]

図表 7 SDGsの認知度（n=1,699）（%）



3.2

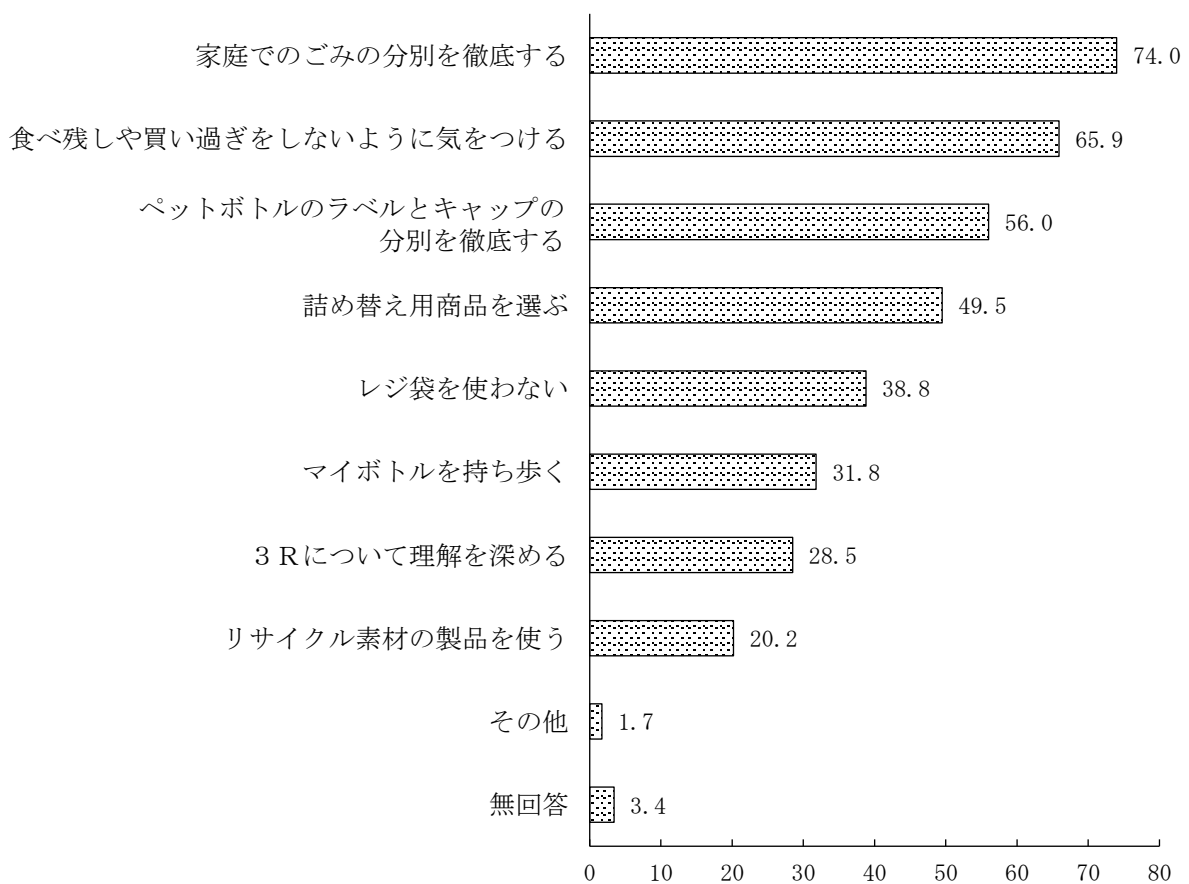
8 3R（問34～問35）

県では、循環型社会の実現に向けて、廃棄物の3R（リデュース[発生抑制]、リユース[再使用]、リサイクル[再生利用]）を推進しています。今回、3Rを推進する上で県民一人ひとりが取り組むべき行動などについて調査しました。

▼3Rを推進する上で、県民一人ひとりが取り組むべき行動（問34）

3Rを推進する上で、県民一人ひとりが取り組むべき行動を複数回答で尋ねたところ、「家庭でのごみの分別を徹底する」が74.0%で最も多く、次いで「食べ残しや買い過ぎをしないように気をつける」が65.9%であった。[図表8]

図表8 3Rを推進する上で、県民一人ひとりが取り組むべき行動（複数回答）（n=1,699）（%）



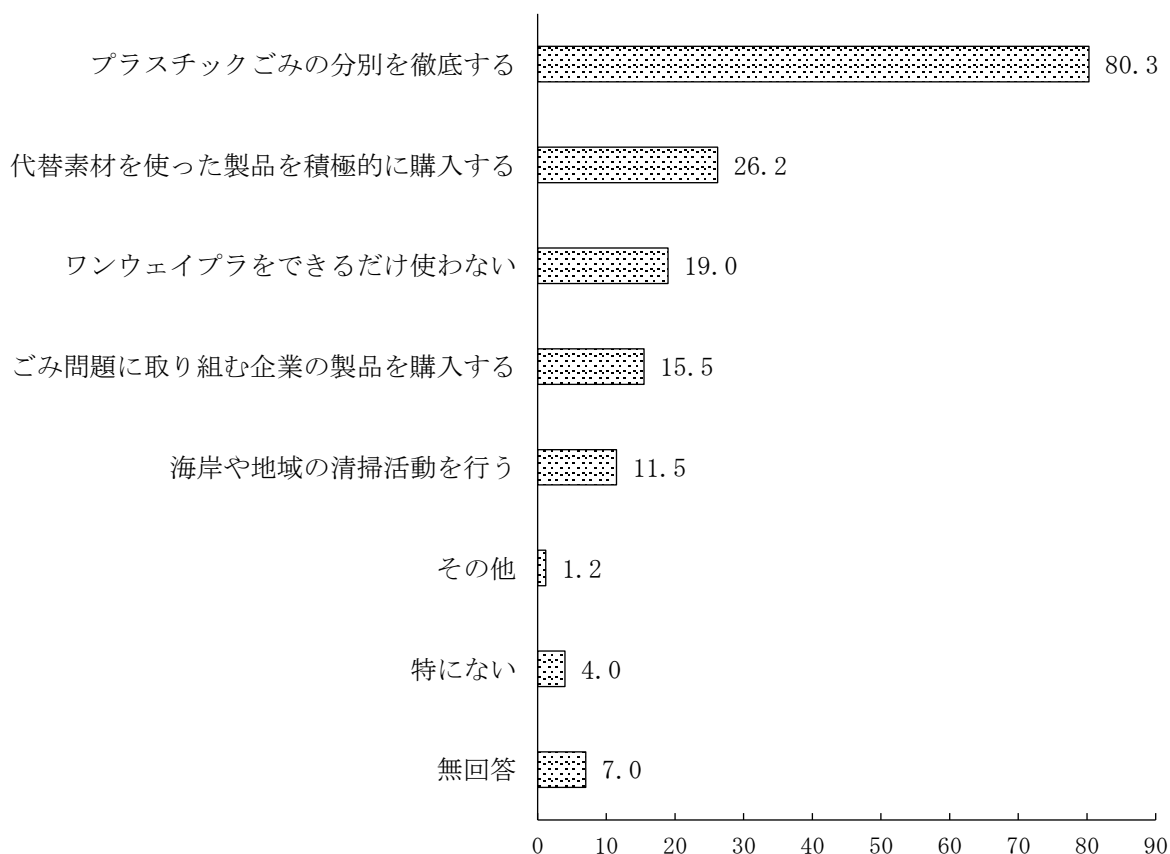
9 プラスチックごみ削減に向けて（問 36～問 38）

県では、「かながわプラごみゼロ宣言」を発表し、深刻化する海洋汚染、特にマイクロプラスチック問題に取り組むため、リサイクルされない、廃棄されるプラごみの削減を推進しています。今回、リサイクルされないプラスチックごみを削減するため心がけていることなどについて調査しました。

▼リサイクルされないプラスチックごみを削減するため心がけていること（問 37）

リサイクルされないプラスチックごみを削減するため心がけていることを複数回答で尋ねたところ、「プラスチックごみの分別を徹底する」が 80.3%で最も多く、次いで「代替素材を使った製品を積極的に購入する」が 26.2%であった。[図表 9]

図表 9 リサイクルされないプラスチックごみを削減するため心がけていること
（複数回答）（n=1,699）（%）



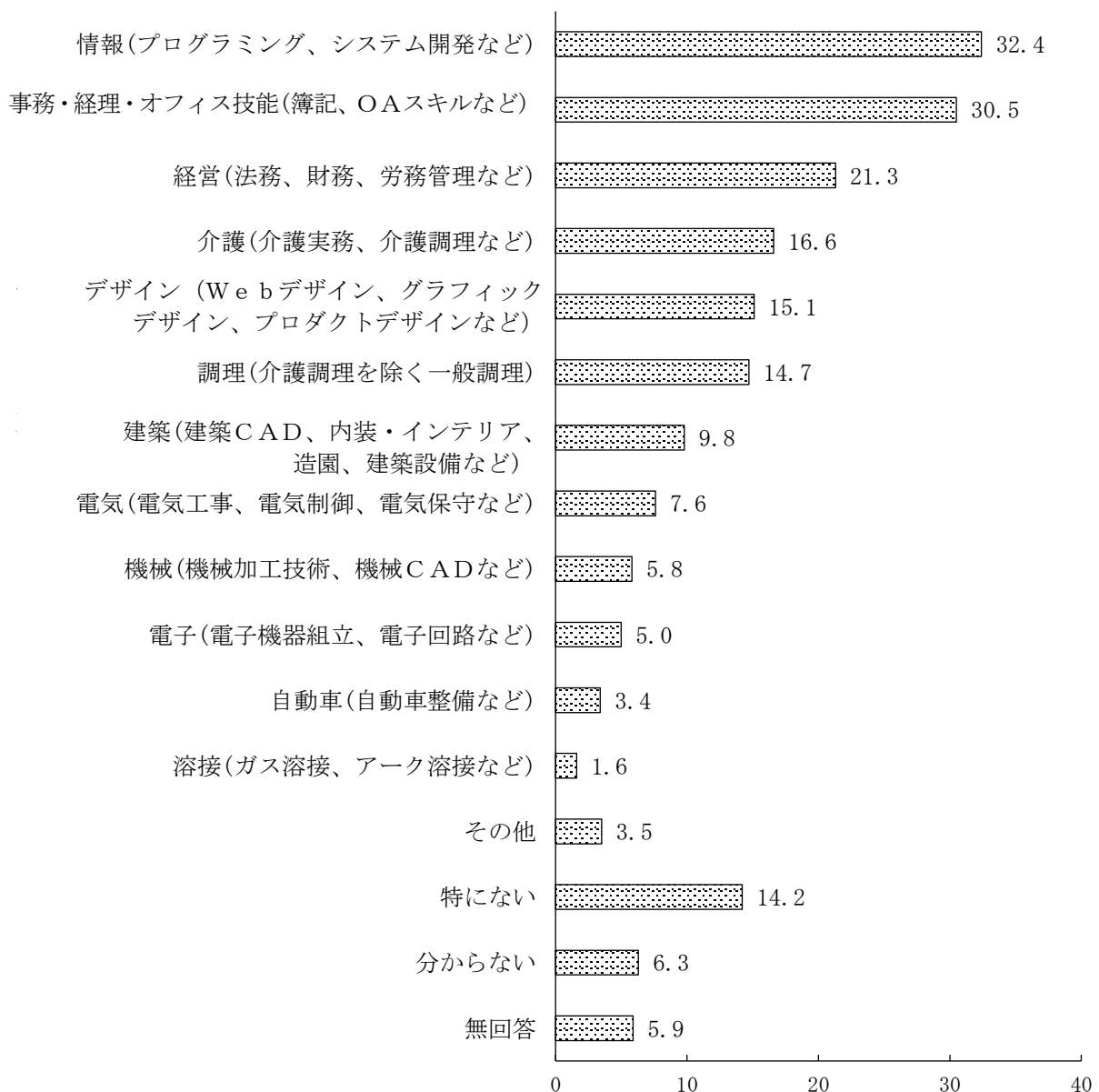
10 職業能力開発（問 39～問 44）

県では、平成 28 年に策定した第 10 次神奈川県職業能力開発計画に基づき、就職や仕事に役立つスキルを身につける職業訓練や、技術・技能の振興などに取り組んでいます。今回、就職や仕事に役立つスキルとして身につけたい知識や技術、技能などについて調査しました。

▼就職や仕事に役立つスキルとして、身に付けたい知識や技術、技能（問 39）

就職や仕事に役立つスキルとして、身に付けたい知識や技術、技能を複数回答で尋ねたところ、「情報（プログラミング、システム開発など）」が 32.4%で最も多く、次いで「事務・経理・オフィス技能（簿記、OAスキルなど）」が 30.5%であった。〔図表 10〕

図表 10 就職や仕事に役立つスキルとして、身に付けたい知識や技術、技能
（複数回答）（n=1,699）（%）



11 犯罪被害者等への支援（問 45～問 49）

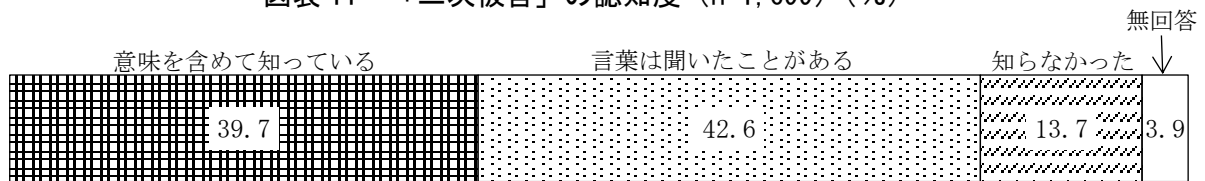
県では、犯罪被害者等を温かく支える地域社会をめざして、支援・施策の充実に取り組んでいます。犯罪被害者やその家族、遺族は、犯罪等による直接的な被害を受けた後に、理解や配慮に欠ける言動や対応、プライバシーの侵害、誹謗中傷^{ひぼうちゆうじゆう}などによって、精神的な苦痛、身体の不調等の「二次被害」を受けることも少なくありません。今回、犯罪被害者等が受ける「二次被害」の認知度などについて調査しました。

▼「二次被害」の認知度（問 46）

「二次被害」という言葉を知っているか尋ねたところ、「意味を含めて知っている」が 39.7%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が 42.6%であった。

一方、「知らなかった」が 13.7%であった。[図表 11]

図表 11 「二次被害」の認知度 (n=1,699) (%)



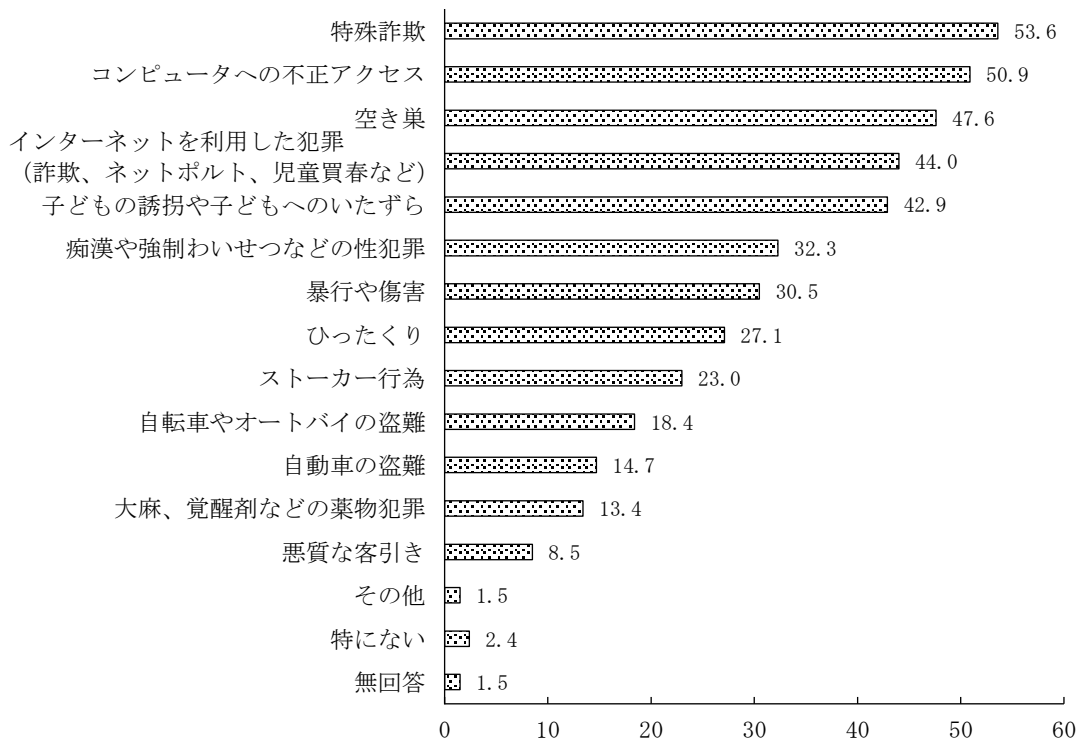
12 治安対策（問 50～問 54）

県警察では、県民が身近に不安を感じる犯罪の抑止・検挙活動を始めとした各種警察活動を推進し、県民の皆様が安全で安心して暮らせる地域社会の実現に努めています。今回、不安を感じる犯罪などについて調査しました。

▼不安を感じる犯罪（問 50）

身近で発生する可能性がある犯罪のうち、不安を感じるものを複数回答で尋ねたところ、「特殊詐欺」が 53.6%で最も多く、次いで「コンピュータへの不正アクセス」が 50.9%であった。[図表 12]

図表 12 不安を感じる犯罪（複数回答）(n=1,699) (%)



13 ねんりんピックかながわ（問 55～問 59）

県では、未病改善で笑顔あふれる人生 100 歳時代を目指し、高齢者をはじめ、誰もがスポーツや文化活動を楽しめるねんりんピックかながわを、2022 年に神奈川県内で初めて開催するため、準備を進めています。今回、ねんりんピックかながわの開催の認知度などについて調査しました。

▼ねんりんピックかながわの開催の認知度（問 55）

ねんりんピックかながわが開催されることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が 4.6%であった。

一方、「知らなかった」が 91.0%であった。[図表 13]

図表 13 ねんりんピックかながわの開催の認知度（n=1,699）（%）

